

国際環境NGO グリーンピース・ジャパン
事務局長 サム・アネスリー様

トヨタ自動車株式会社
代表取締役社長
佐藤 恒治

温室効果ガス排出削減に関する公開質問状へのご回答

貴団体におかれましては、カーボンニュートラルの実現を一緒になって考え、真摯なご提案を
いただいております。厚くお礼申し上げます。ご質問につきまして、以下の通り回答いたします。

弊社は、会社の使命を「幸せの量産」と定め、お客様をはじめとする世界中のステークホルダーの
幸せに貢献するために、社会と企業の持続的な発展を目指しております。この中で、重要な課題の
一つとして、「人類と地域の共生」を掲げ、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを
進めております

具体的には、弊社は、パリ協定に賛同しており、それに沿った行動として、クルマが走行時に排出する
温室効果ガス(GHG)だけでなく、ライフサイクルの全てのプロセスにおけるカーボンニュートラルの達成を
目指しています。

その実現に向け、志を共にするサプライヤーや国内外の関係先と連携し、次世代電池の開発、
水電解装置や定置用蓄電池システムの開発・実証、持続可能な電池エコシステム確立等の取り組み
を進めております。また、国内外の燃料事業者と、カーボンニュートラル燃料の認知拡大、社会実装等
を行っている他、各国・各地域のエネルギー政策やインフラ整備に関して各政府と対話を続けております。
さらに、GHG目標については、Scope1,2の総量目標、Scope3 Category11の原単位目標は、
Science Based Target Initiativeから認証を得ており、計画を立て取り組んでいます。

カーボンニュートラルの実現に向けては、国や地域ごとに異なるお客様のニーズやエネルギー事情に
柔軟に対応していくことが不可欠です。弊社は、多様なモビリティの選択肢を提供する「マルチパスウェイ
戦略」のもと、各市場の実情に応じた最適な取り組みを進めることで、現時点で可能な対策から着実に
排出量の削減を図ってまいります。

以上の取り組みの詳細、実績につきましては、サステナビリティデータブック(2025年6月更新)に
掲載しておりますので、そちらをご覧くださいましたら幸いです。

最後となりましたが、貴団体には、これまでも直接対話の機会を頂き、誠にありがとうございます。
弊社のカーボンニュートラル実現に向けた志は、貴団体と変わらないものと認識しております。

未来のCO₂削減を着実に実行していくためにも、企業が健全な事業活動を継続できる体力が
大事であると考えております。この体力がなければ、人々の生活を支えていくことは難しくなります。
トヨタは、この体力の維持、向上を図りながら、未来を笑顔あふれる社会にしていくための投資を続け
てまいります。

引き続きご理解、ご助言を賜りたくお願い申し上げます。